

# DHカフェ 「学生部だより」

2019年 12月 VOL.37

## プロフェッショナルの現場 認定歯科衛生士として

### ○障害者歯科認定歯科衛生士 丹野 直子さん

『たんのしゃーん、来たよ』「○君こんにちは」、「こんにちはー」「今日も元気ね」『げんきね』、の会話から始まる自閉スペクトラム小2男子のトレーニング。チェアの背板に背中を付けることが苦手なダウン症高2女子のメインテナンス。様々な障害を持つ方と関わる診療室は、笑いや泣き声で大賑わい。また毎月の施設訪問での口腔ケア援助（19年継続中）。会話のキャッチボールはできているのですが内容を理解しているのか否か？でも、五感を使って清涼感を味わってもらうことが歯科衛生士としての喜びを感じています。

地域の障害者歯科は、①相談・予防・健康管理を中心にできる限りの治療を行うが、原則は経験や知識の無い中、熱意だけで行うべきではない。②患者の能力を評価なしで疾患の進行を棚に上げた長期トレーニングなどの無駄をしない。③診療拒否などの障害者への無関心無理解による無視をしない。スペシャリスト「歯科医師、緒方克也先生」の言葉を常に心に留め日々支援に努めています。やりがいを感じて!!



【上手に歯磨き】



【施設訪問時の口腔ケア】



【視覚支援の媒体】



【きれいになったお口で】【発達障害と診断されたばかり】  
バイバイ 特訓中



【中学校での歯科指導】



【地域のサロンでの講話】



【地域づくり介護予防講座】



【地域のサロンでの講話】

### ○摂食嚥下リハビリテーション認定歯科衛生士 飯村 由佳さん

私が勤務する総合南東北病院には、平成22年4月に口腔外科が開設されました。当科では、口腔に関するすべての疾患の診療を行っています。口腔は呼吸・咀嚼・嚥下など、人間が生きる上で必要な機能、さらに発声、味覚など社会生活を送る上で重要な機能が集中しています。この部分に障害が起きると直接QOLに影響するため、例えば口腔がんならば、がんを治す根治性とQOLとのバランスのとれた治療が重要であり、私たちは通常の診療業務に加え手術器械の準備やアシスタンント、緩和ケア、そして認定歯科衛生士として「摂食嚥下リハビリテーション」に一貫して取り組んでいます。外来や病棟での嚥下評価や嚥下リハを行い、またVF・VEの準備やアシスタンントなど、当科に所属する嚥下リハを専門に行っている言語聴覚士と協力し、業務を行っています。また、週に1度は「口腔外科医・口腔外科衛生士・言語聴覚士」の3職種でカンファレンスを行うなど、チームとしてより良い医療の提供を行っています。



【VFの様子】



【口腔外科外来】



【全身麻酔での手術の様子】



【嚥下カンファレンスの様子】

### ○在宅療養指導・口腔機能管理認定歯科衛生士 鉢建 英子さん

超高齢化社会を迎え、8020達成率も五割を超えて高齢多歯時代となりました。ずっと自分の歯で食べられる、8020運動すごい成果です。しかし、平均寿命と健康寿命の差が10年前後あります。健康寿命が延びて差が縮まることが望ましいが、その10年前後の間は他の方の介助により生活していくことになります。

歯磨きは誰でもやっている事ですが、高齢になり全身状態が変わっていく中での口腔ケアはより複雑となります。口腔内清掃だけでなく口腔機能ができるだけ維持し、QOLを低下させないようにしたいです。本人は勿論、家族、介護員、看護師など関わる方々に適確なアドバイスが必要です。しかし、全身状態が低下していく中で残存歯が多い程、関わり方が難しくなります。口の中が整っていても、うまく機能出来る様にみていく事が必要です。全身をそして生活に繋がる口をみて行けるようになります。

どのステージにおいても口の中をきれいに保つ支援が歯科衛生士の基本です。数字だけではなく、色々な変化に気づくことが大切です。そのように心掛けながら介護施設で仕事をしています。



【経管栄養摂取の方の口腔ケアをしています】



【食べる機能を確認しながら食事介助をしています】



【口腔機能訓練でブローキングを個別に行ってています】  
【集団で行う事もあります】

# 2019年度学生セミナー

日時：2019年7月31日（水）13時30分～15時45分

場所：福島医療専門学校

対象：歯科衛生士養成校学生 2年生

内容：【セミナー】

(1) 認定歯科衛生士を取得して

\*摂食嚥下リハビリテーション認定歯科衛生士

郡山医療生活協同組合 桑野共立病院 菅家 美和子

(2) 認定歯科衛生士の展開について

\*生活習慣病予防認定歯科衛生士

\*摂食嚥下リハビリテーション認定歯科衛生士

\*在宅療養指導・口腔機能管理認定歯科衛生士

\*研修指導者・臨床実地指導者認定歯科衛生士

フリーランス 菅野 洋子

〔レクリエーション〕～歯科衛生士学生の知らない世界～

乳幼児・学童期編

副会長 和田 嘉代子

高齢期編

監事 菅野 洋子

参加者：65名（2年生）



第2回となる学生セミナーが開催されました。昨年に引き続き認定歯科衛生士の方々に活動状況を講演していただきました。病院歯科での歯科衛生士の役割や取得した認定を展開するため多職種と連携する重要性について伝えられました。また、そのような認定を取得し、日々新しい情報を得て活かすためにも本会への入会の必要性も伝えられました。

レクリエーションでは、実際に行っている乳幼児・学童期編と高齢期編の公衆衛生活動を体験しました。始めの乳幼児期、学童期編では、効果的な媒体の使い方や聞き手を引き込む話術を学びました。グループ対抗戦で行われた高齢期編では、口腔機能低下予防のためにストローでおもちゃのお札を吸い集めたり、ストローを唇だけでくわえての輪ゴムリレーなど熱戦が繰り広げられました。これから臨床実習に臨み将来歯科衛生士となる学生のみなさんに、歯科衛生士の仕事の重要性と魅力を伝える良い機会となりました。

【記：組織委員会】

発行/一般社団法人 福島県歯科衛生士会  
組織委員会  
〒960-8015 福島市仲間町6-6  
福島県歯科医師会館内



## 媒体作成 ～歯科保健指導～

和田 嘉代子さん

内容 歯科健康教育等に使用する媒体の作成過程について

私の場合は、行政勤務の歯科衛生士なので、媒体は市の予算内で作成し、市の所有する媒体となります。

### (1) 媒体を作成する前に

①歯科健康教育に使用する媒体をどんなものを使用するか考える。

・対象者（大人？子ども？）

・対象人数

・内容の理解度

・媒体の大きさ、強度

②材料は、できるだけ身近にあるものを使用し、高額なものは使わない。

③歯科関係の雑誌、書籍を参考にしたり、先輩歯科衛生士から教えてもらって最初から無理をしない。できそうなところからやってみる。

### (2) 作成する

実際に使用する期日よりも余裕をもって完成させる。

・実施日前に何度か完成した媒体で健康教育の練習をするため

### (3) 使用する

対象者の反応などで、改善すべきところは次回使用に向けて修正、変更する。

媒体（健康教育を行う）を使うときに心がけていること

①対象者の相手の立場になって、目線を合わせる

②ほめる（いつもよりオーバーに）

③対象者が大人でも専門的な言葉は使わない

（大人を対象としていても、小学3年生がわかる内容で十分伝わります）

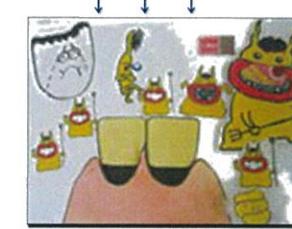
④相手の反応に応じて、話が一方的にならないように

○今回紹介する媒体-「パネルシアター」、「歯みがきパペット歯みがきじょうず君」モコモコした台に「Pペーパー」という薄い用紙をくっつけるしかけ（調べて作ってみてね）

① むし歯ってどうしてなるの??



歯みがきをしないと…



むし歯菌の出す酸で歯が溶けるよ

② 人間はいろいろな歯があって  
それぞれに役割があるよ



どの歯も大切なんだね

参考にしたのは  
こちらの書籍



歯みがきパペット  
きれいな歯で  
インパクト大！！

著者：岡山大学病院小児歯科  
岡崎好秀先生